

第13回

①1

物理学概論第一

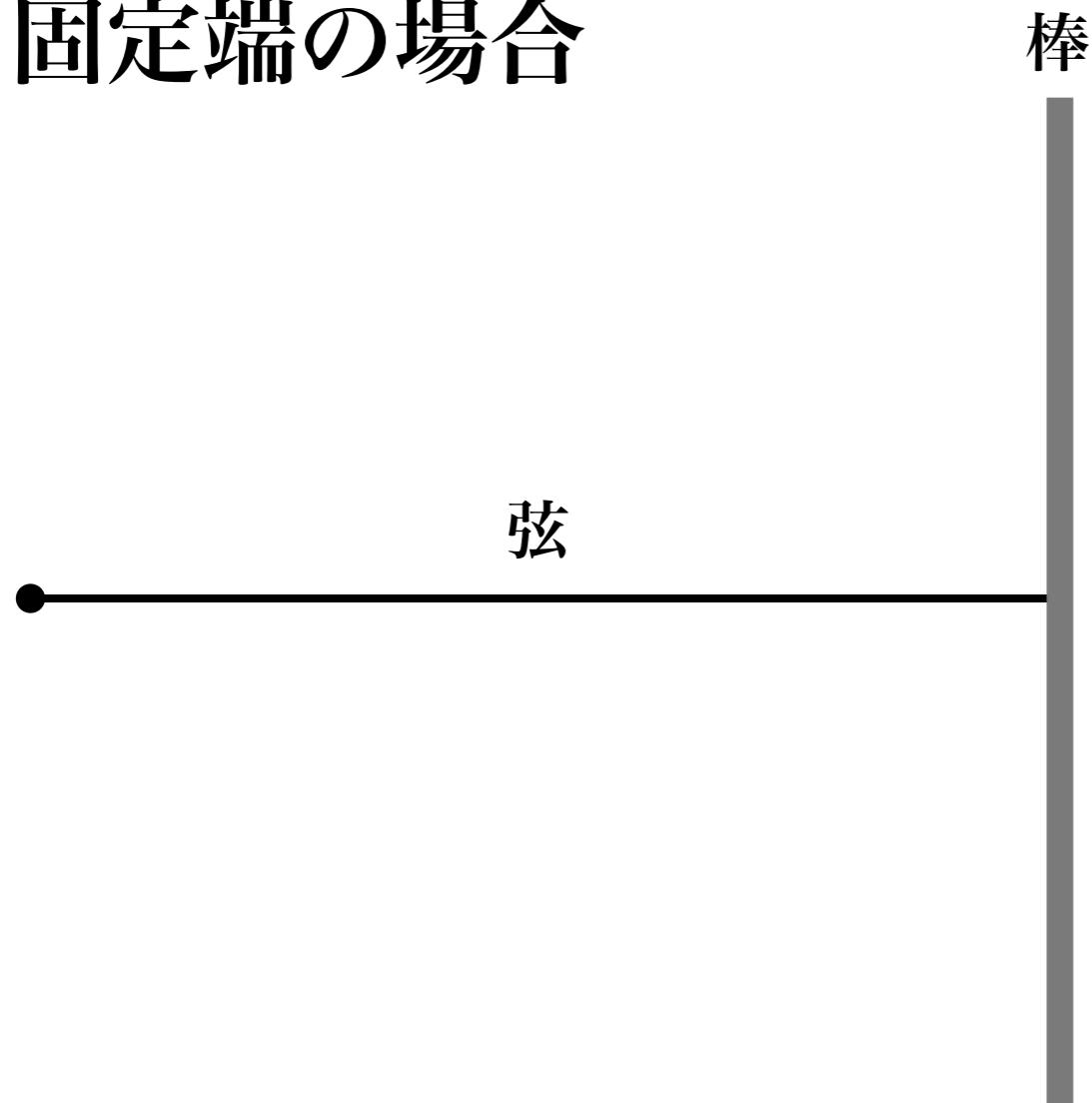


波の反射 - 固定端と自由端

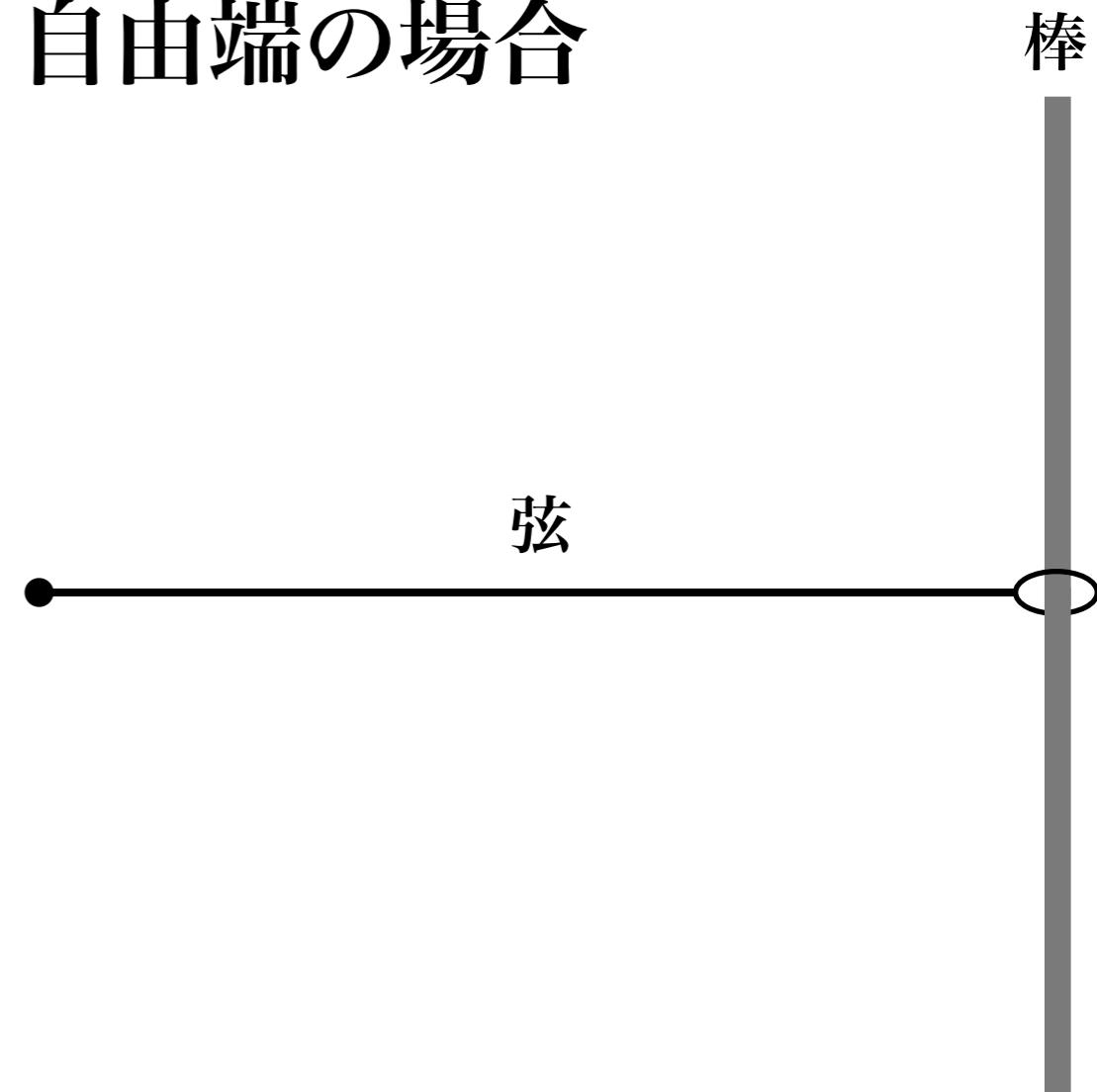
②

- 反射波の位相は、境界面の性質により変わる
- 右端を棒に取り付けた弦の左端を横に振動

固定端の場合



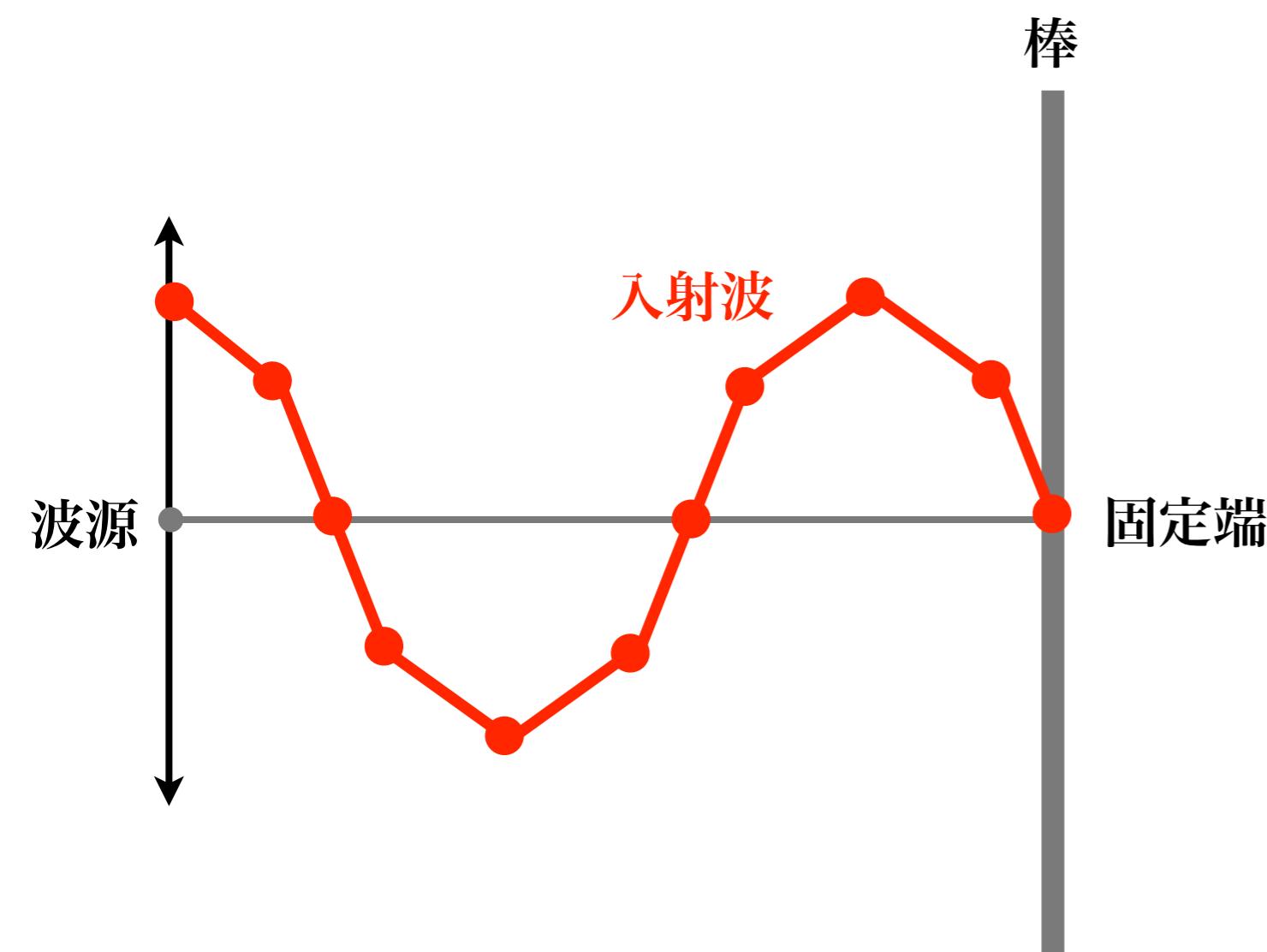
自由端の場合



固定端から考えてみる

- ・波が入射すると、媒質から固定端に力が作用
- ・固定端は不動 → 固定端から媒質に逆向きの

力が作用する



固定端での変位を考える

• 入射波 $A \sin 2\pi \left(\frac{t}{T} - \frac{x}{\lambda} \right)$ → 反射波 $B \sin 2\pi \left(\frac{t}{T} + \frac{x}{\lambda} \right)$

合成波 $y(x,t) = A \sin 2\pi \left(\frac{t}{T} - \frac{x}{\lambda} \right) + B \sin 2\pi \left(\frac{t}{T} + \frac{x}{\lambda} \right)$

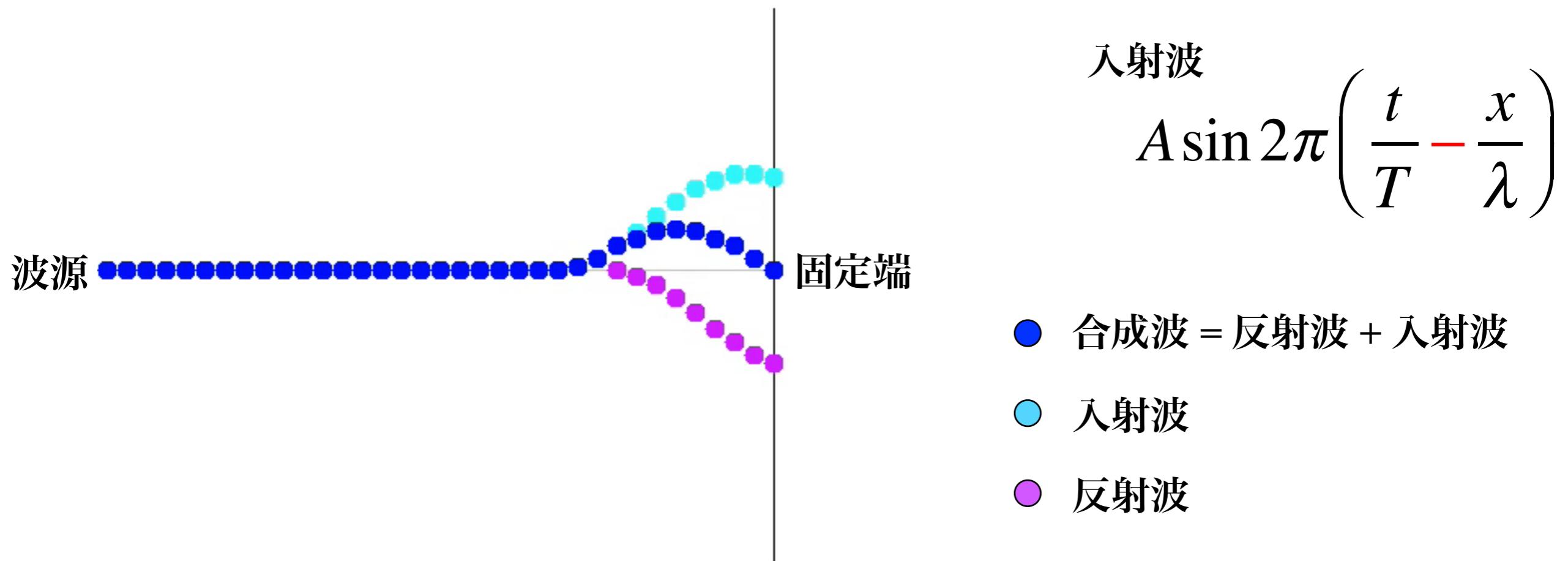
• 固定端を $x = 0$ とすると、そこでの変位は 0

$$y(0,t) = A \sin 2\pi \frac{t}{T} + B \sin 2\pi \frac{t}{T} = 0$$

固定端からの反射波は？

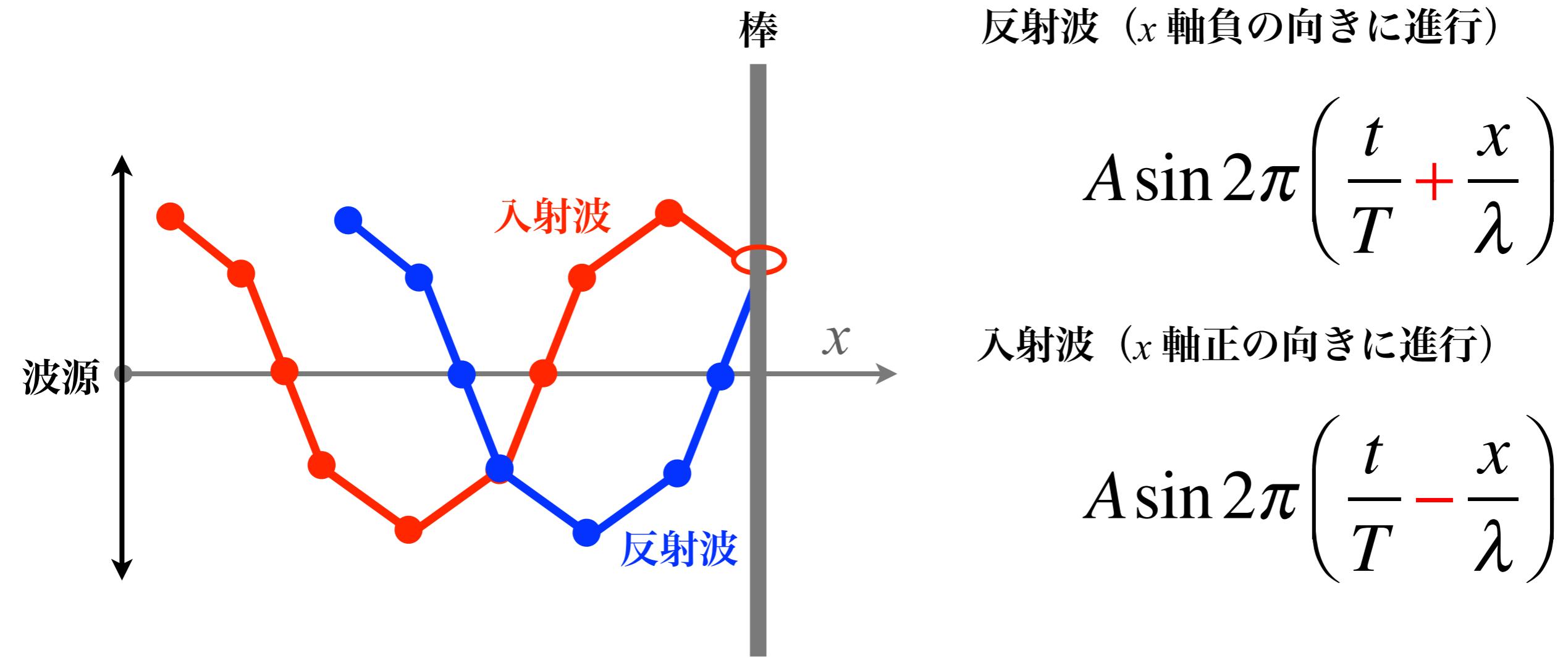
- 結局、固定端における反射波は

$$B = -A \longrightarrow B \sin 2\pi \left(\frac{t}{T} + \frac{x}{\lambda} \right) = -A \sin 2\pi \left(\frac{t}{T} + \frac{x}{\lambda} \right)$$



次は自由端

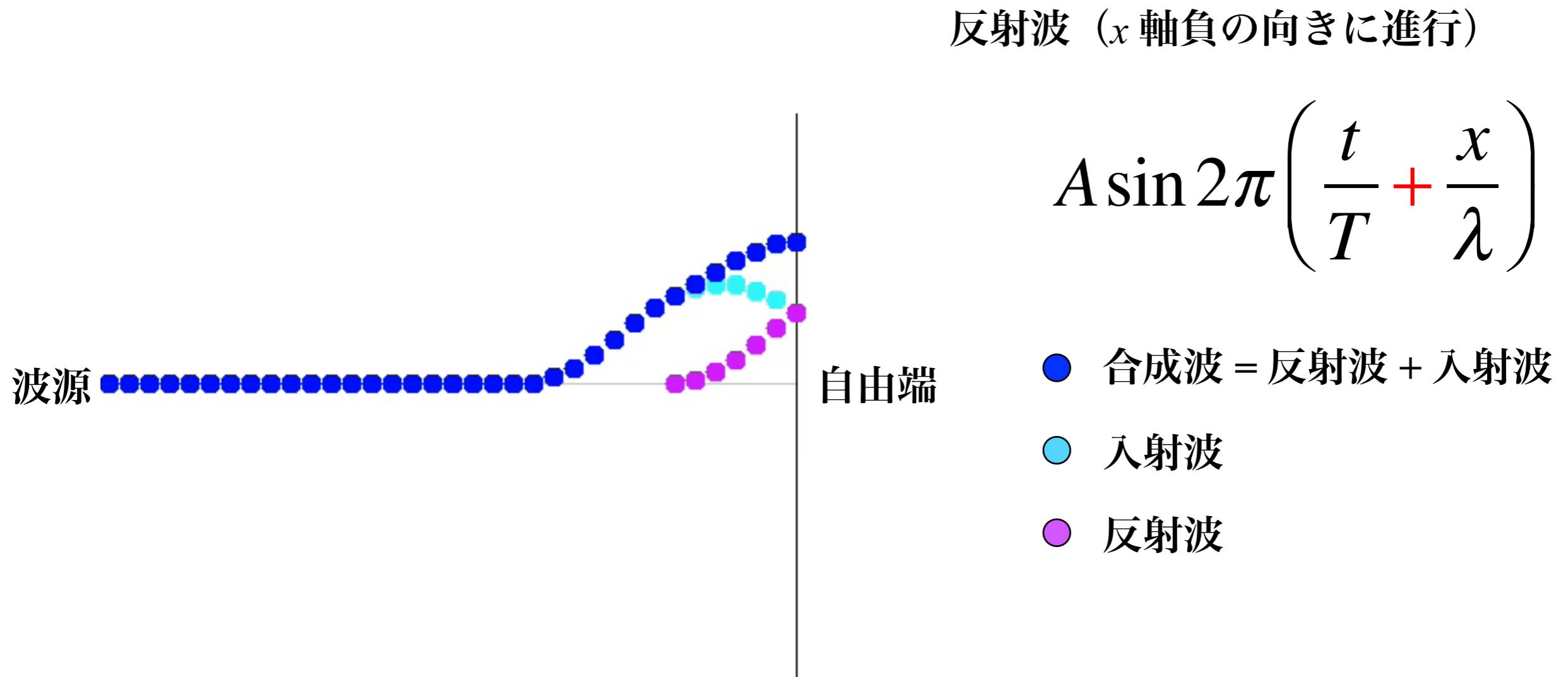
- ・波が入射すると、自由端は“自由”に運動
- ・つまり反射波と入射波と同位相で振動する



自由端からの反射波は？

7

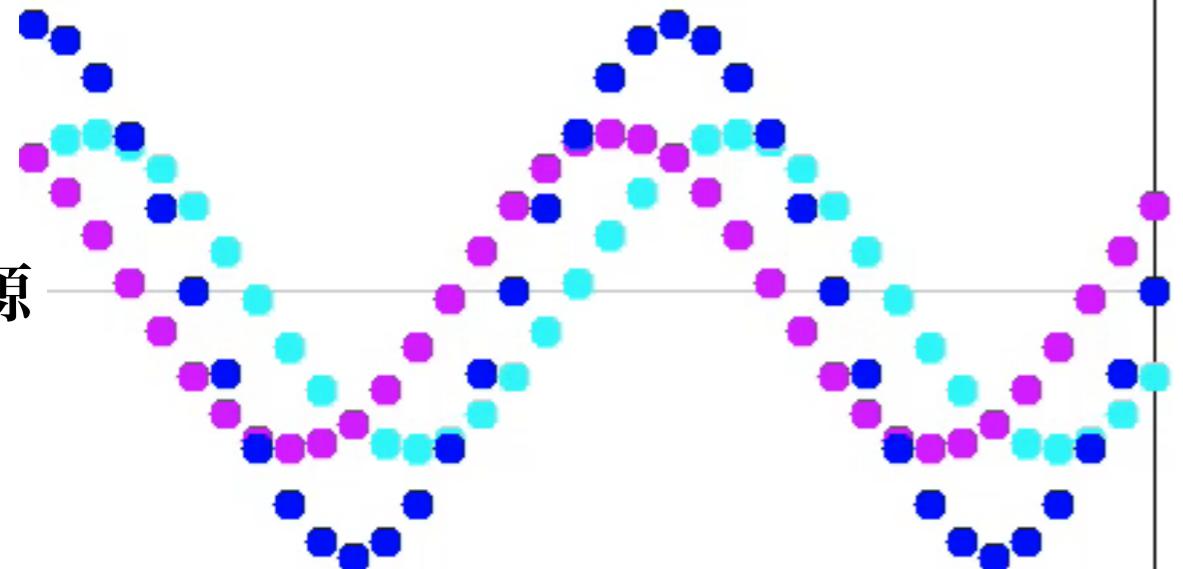
- 反射波の位相は保存, x 負の方向に進行する



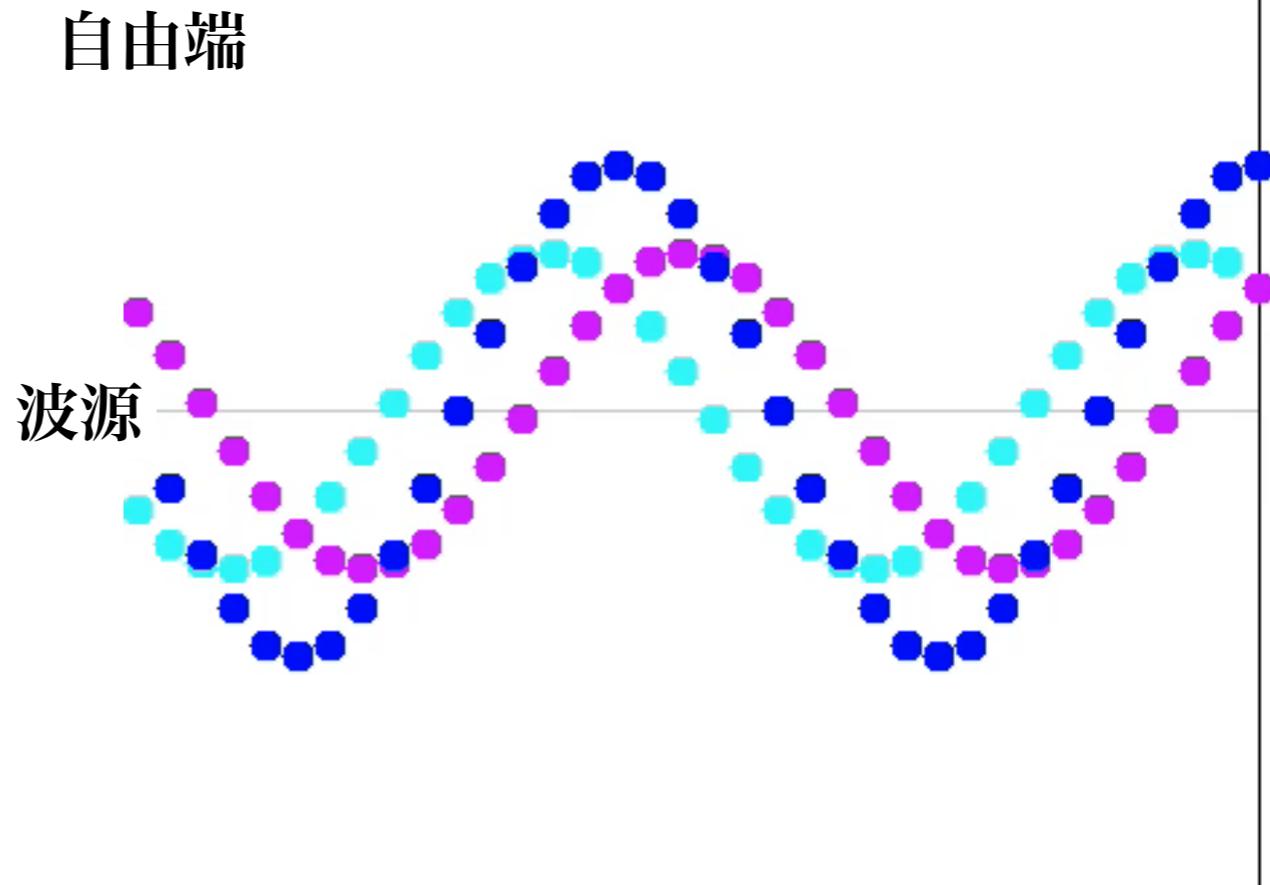
連續的な波の反射の様子

- ・ 波長も f も λ も等しい正弦波が反対に進行
- ・ 場所によって決まった振幅で振動, 進まない!

固定端



自由端

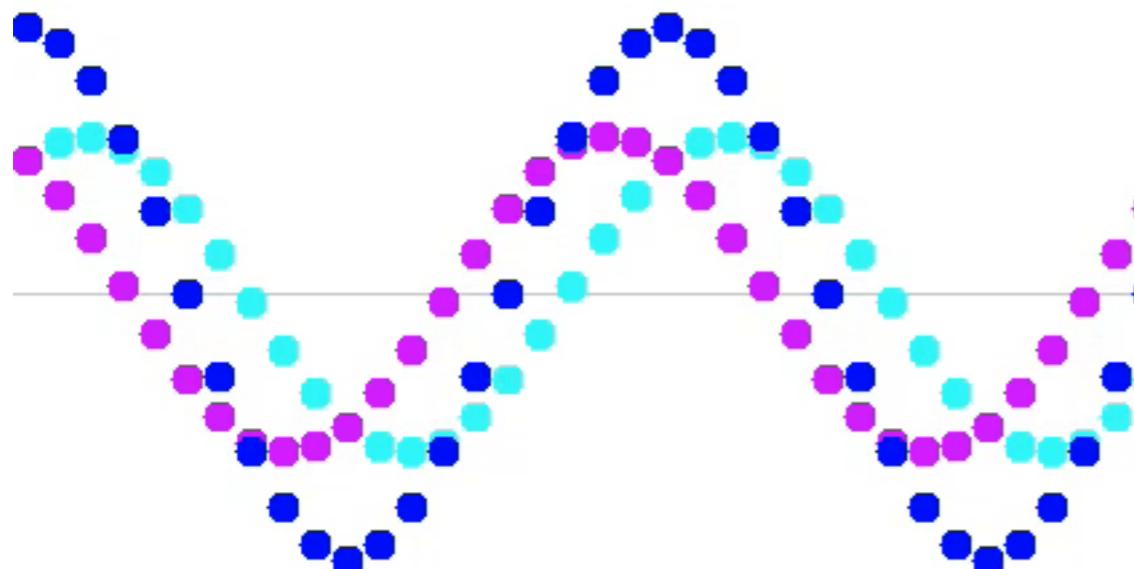


- 合成波 = 反射波 + 入射波
- 入射波
- 反射波

定在波の腹と節

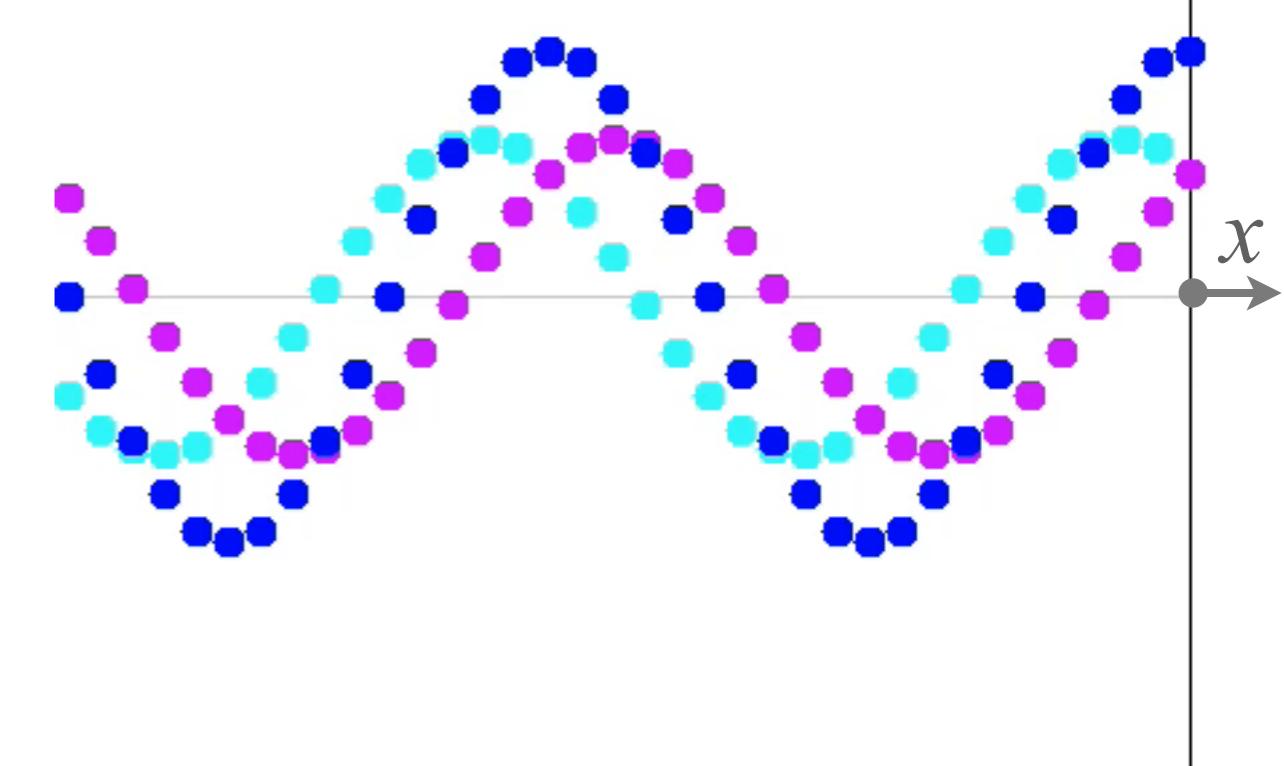
- ・振幅最大の場所を腹, 全く振動しない点を節
- ・固定端は節, 自由端は腹になる

固定端の場合



節

自由端の場合



腹

定在波の数学的導出

- 入射波と反射波を $\sin A + \sin B = 2 \sin \frac{A+B}{2} \cos \frac{A-B}{2}$ で合成

固定端

$$y(x,t) = A \sin 2\pi \left(\frac{t}{T} - \frac{x}{\lambda} \right) - A \sin 2\pi \left(\frac{t}{T} + \frac{x}{\lambda} \right) = -2A \sin 2\pi \frac{x}{\lambda} \cos 2\pi \frac{t}{T}$$

$\sin 2\pi \frac{x}{\lambda}$ が最大, $2\pi \frac{x}{\lambda} = (n + \frac{1}{2})\pi \longrightarrow$

自由端

$$y(x,t) = A \sin 2\pi \left(\frac{t}{T} - \frac{x}{\lambda} \right) + A \sin 2\pi \left(\frac{t}{T} + \frac{x}{\lambda} \right) = +2A \cos 2\pi \frac{x}{\lambda} \sin 2\pi \frac{t}{T}$$

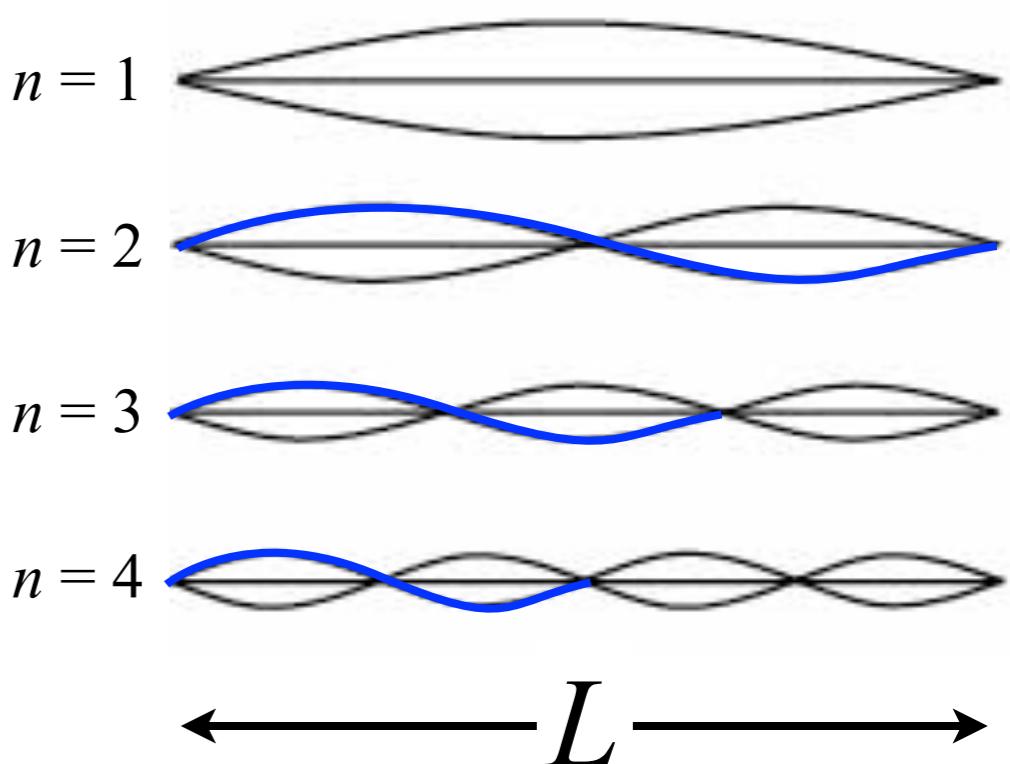
$\cos 2\pi \frac{x}{\lambda}$ が最大, $2\pi \frac{x}{\lambda} = n\pi \longrightarrow$

弦の固有振動

- 両端を固定した長さ L の弦をはじく
- $n\lambda = 2L$ を満たす複数の定在波: **固有振動**
- 定在波の振動数を **固有振動数**

$$\lambda_n = \frac{2L}{n}$$

$$f_n = \frac{\nu}{\lambda_n} = \sqrt{\frac{S}{\mu}} \frac{n}{2L}$$



角周波数 ω と角波数 k

- 波を数式で表現する際に, 角周波数 ω と角波数 k を用いることが多い

$$y(x,t) = A \sin 2\pi \left(\frac{t}{T} - \frac{x}{\lambda} \right) =$$

$$\text{角周波数: } \omega = \frac{2\pi}{T}$$

$$\text{角波数: } k = \frac{2\pi}{\lambda}$$